

福祉 ぐんま

NO. 243
2013 冬号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



■主な内容

- * ぐんまボランティアフォーラム2012...2
- * 年頭のごあいさつ...3 * ハートtoハート ミュージックフェスティバル...3
- * 平成24年度虐待防止セミナー...4 * 介護支援専門員現任者研修...5
- * ボランティア情報...6~7
- * 素敵な笑顔...8
- * 福祉マンパワーセンターよりお知らせ...8
- * 福祉まめ知識...8

知的障害者施設 らいず
高平 直明さん
(関連記事は3ページに掲載)

 「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

ぐんまボランティアフォーラム2012

～つなげよう今、そして未来へ～開催!!



「ぐんまボランティアフォーラム2012」(同推進委員会、県社会福祉協議会、県ボランティア連絡協議会主催)が11月24日、「前橋市総合福祉会館」を会場に開催され、みんなの図書館・代表の川端秀明さんの講演を始め、震災を風化させないために何ができるかを深めあったパネルトーク、テーマ別の4つの分科会などさまざまな催しが行われました。

パネルトークより

《様々な関係者同士による協働の企画》

本フォーラムは、東日本大震災の支援活動でのつながりを、参加者の方々とさらに強くしていく機会とするために、ボランティアやNPO活動に関心のある方や、実践者などを対象に実施しましたが、企画段階から、ボランティア・市民活動に携わる様々な業種の方たちで協働・連携し、様々なアイデアを出し合って取り組んできたのが、今大会の特徴でありました。

《ボランティア・市民活動の新たなつながりを目指して》

基調講演では、川端さんが「コミュニティの拠り所をつくる」とのテーマで講演を行い、震災や自然災害などにより移住



東北3県の授産製品の販売を行った「復興デパート」



分科会「集え学生! 創ろう、これからのボランティア」より

を余儀なくされ、コミュニティの再生が急務とされる地域にコミュニティを醸成できる場所として図書館を設置し、地域での生きがいづくりを図る「みんなのとしよかんプロジェクト」の活動を通して、参加者に被災地の現状や復興への歩みについて呼びかけた後、福島県いわき市の現状や群馬県へ避難されている方を支援する団体、実際に群馬で生活されている方の声を聴きながらのパネルトークを行いました。

その他にも、テーマ別の研究会である分科会やボランティア・市民活動団体を中心に、企業や関係団体、専門職種、大学等、東日本大震災で様々な支援活動を行った団体同士の活動を紹介するパネル展示を行った他、東北3県の福祉施設での授産製品を中心とした「復興デパート」を行い、広く県民の方々に震災

《新たなつながりへ》

支援やその活動について啓発・普及の機会を創り、同分野を超え、異分野の方々とのつながりづくりの機会となりました。

今回のフォーラムでは、東日本大震災の支援活動とおして生まれた関係者とのつながりを大切にしながら、改めてボランティア活動の必要性や意義を見直し、本県におけるボランティア活動の一層の振興につながる機会として実施されたが、誰もが安心して暮らし続けることのできる地域づくりのために、今後も様々な課題解決と向き合うボランティア・市民活動の裾野を広げ、関係者と協働・連携して課題解決に取り組むきっかけづくりとなるような機会を創っていききたい。



様々な関係団体の活動紹介と交流を図った「パネル展示」コーナー

年頭のごあいさつ

社会福祉法人
群馬県社会福祉協議会

会長 下城 茂雄



皆様方におかれましては、平成25年の新春をお健やかに迎えのこととご慶び申し上げます。

あの未曾有の大災害となりました東日本大震災から1年9か月が経過いたしました。我々は、これからも被災された方々や被災地に寄り添い、息の長い支援を続けていかなければなりません。

この災害では、人と人とのつながりや地域の支え合いの大切さがあらためて認識されたところです。

近年、社会・経済状況が大きく変化する中で、さまざまな福祉課題・生活課題が生じておりますが、これらの多くは、人間関係の希薄化、家庭の機能の低下、地域社会の機能の脆弱化と深く関わっているものと考えられます。

今、家族や地域社会の在り方が問われており、同時に、「地域福祉の推進」を目指す県社協の使命と役割が問われています。

こうした中、我々は、「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭、地域で、その人らしく、安心して暮らせる福祉社会」の実現に向けて、みんなで協力し、一歩一歩進んでいきたいと思います。

本年もよろしくお願い申し上げます。

第20回 ハートtoハート

ミュージックフェスティバル



群馬県社会福祉協議会厚生事業部会による、「第20回ハートtoハートミュージックフェスティバル」が去る10月30日(火)に前橋市総合福祉会館を会場に開催されました。参加者は、当日のスタッフ等を含め527名。例年以上にたくさんの方々にお集まりいただき、盛況のうちに終わりました。

開催の趣旨

歌や音楽に国境はありません。歌はいつも私たちのそばにいて、共に悲しみ、慰め、怒り、喜び、愛し、支え、励まし、勇気づけてくれます。この世にふたりと同じ人間がないように、私たちは障害の有無や出身、信条にこだわるのではなく、お互いの違いを認め合い、共に生きることでできる心を持ちたいと願っています。

そんな私たちの願いを音楽に託し、ひとりでも多くの方々へ共感を得て、明るい社会づくりに寄与することを目的に開催しているものです。

豪華なプログラム構成

今回は、演奏やCD制作、楽



ストレイ☆ボイズ
『爆笑・感動・気持ちいい』をモットーに活動 27 年目を迎えて精力的に活動中！)



曲提供など幅広い活動を展開されている「ボサノバ・カサノバ」、本県出身の「ストレイ☆ボーイズ」、マジック・ジャグリング・バルーンアートなど様々なジャンルをもつ「マジヤシャン 若鳩(じやつく)」、県身体障害者団体連合会カラオケ交流大会入賞者による音楽発表の計4つのプログラムにより構成。節目の20回目にふさわしい豪華な内容で実施しました。

開催までの準備と11月の運営

フェスティバルの実施にあたり、日頃、支援業務を行っている職員による実行委員会を組織。委員自らが出演交渉を行うなど、計4回の会議を経て準備を進めてきました。

さらに、当日の運営にあつては、実行委員だけでなく、厚生事業部会を構成する全ての施設・団体から職員を派遣いただき、係員として当日の円滑で安全な実施にご尽力いただきました。



マジヤシャン 若鳩
「マジック+ジャグリング=マジヤシャン」としてパフォーマンスを開催中！

平成24年度

虐待防止セミナー開催

県内の社会福祉関係者などを対象に、平成24年10月19日(金)、11月19日(月)、11月27日(火)の3日間、群馬県社会福祉総合センター8階ホールにおいて、「虐待防止セミナー」が開催されました。
 総計で487名の参加をいただきました。

本年度も県社会福祉協議会主催により、県民一人ひとりが地域社会で安心した社会生活が送れるよう、暴力や虐待の発生メカニズムや正しい対処法などを明らかにし、暴力や虐待のない社会の創造を目指し、共に考え共に理解を図ることを目的に開催いたしました。

3日間に渡り、高齢者分野に日本女子大学人間社会学部教授渡部律子氏、児童分野に子どもの虐待防止センター理事・相談員の広岡智子氏、障害者分野には南魚沼法律事務所弁護士の黒岩海映(みはえ)氏をそれぞれお招きしました。

第1回は10月19日(金)に高齢者虐待について、渡部律子氏に講演いただきました。

渡部先生からは、高齢者虐待の現状、虐待が起こる背景等について講義があり、またDVDを用いた相談援助技術の演習も行われました。



渡部律子氏

第2回は11月19日(月)に広岡智子氏に児童虐待について講演いただきました。

広岡氏は虐待の現状と理解をNPOの現場から訴える提言活動も行っており、虐待の歴史・定義、虐待がおきる原因等、多くの体験事例を交えてお話いただきました。



広岡智子氏

第3回は11月27日(火)に障害者虐待について、黒岩海映氏に講演いただきました。

黒岩先生からは、弁護士として自らがたずさわった虐待事件や障害者差別禁止法制定に向けた活動を中心に、調査報告や障害者虐待防止法の説明、虐待防止施策の今後の課題についても説明がありました。



黒岩海映氏

参加者アンケートでは、「考えさせられる研修だった。」「講師が体験した虐待事例の内容で、生の声が聞いてよかった。」「具体的事例が衝撃的だった。」「実例とともに法の解釈していただき参考になった。」などたくさんのご意見をいただきました。

今後、県社協としてもさらに充実した研修が提供できるようにしていきたいと思っております。



平成24年度
 権利擁護
 セミナー
 のお知らせ

日常生活自立支援事業の意義や役割について、判断能力が不十分な高齢者や障害者の地域生活を支える権利擁護の多様な支援組織の活動紹介を通して、一層の理解を深めていくことを目的として開催いたします。

【日時】

平成25年1月29日(火)
 13時30分～16時00分

【講演・講師】

テーマ 「地域活動と権利擁護」
 國學院大学 法科大学院
 教授 佐藤彰一氏

【会場】

群馬県社会福祉総合センター
 8階ホール
 (前橋市新前橋町13-12)

【連絡先および申込先】

福祉サービス支援課まで
 TEL 027-2555-6226
 FAX 027-2555-6173

介護保険制度の中核的な役割を担う

専門職としての資質向上を目指して

介護支援専門員現任者研修

本会では、平成二十三年度に、介護保険法第六十九条第三十三第一項の規定に基づき、群馬県から、「指定研修実施機関」の指定を受け、以下の研修を（一部委託事業を含む）実施してきました。

なお、介護支援専門員は、平成十八年度から、5年毎の更新が必要となり、介護支援専門員として従事するには、現任者研修（更新研修）を受講することが義務付けられています。

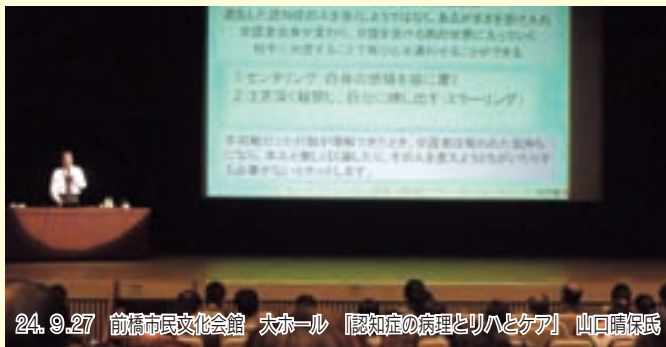
実務従事者基礎研修

実務従事者基礎研修は、介護支援専門員としての初任者を対象に、実務経験が、おおむね通算1年未満の方を対象に開催しました。

研修日数は、五日間（平成二十四年九月六日から九月二十五日までの間）でした。参加者は、全体で、103名でした。研修内容は、「介護支援専門員の倫理」や「プロセス論」等の全体講義と居宅コース・施設コースに分かれ演習を実施しました。

専門研修課程Ⅰ （実務経験者更新研修①）

専門研修課程Ⅰは、初任者・中堅レベルの介護支援専門員を対象に、さまざまな専門的分野の知識・技術を習得し、専門職



24.9.27 前橋市民文化会館 大ホール 『認知症の病理とリハとケア』 山口晴保氏

としての資質の向上を目的として開催しました。

研修日数は、七日間（平成二十四年九月二十六日から十月三十日までの間）でした。参

加者は、全体で189名でした。研修内容は、「介護保険制度論」「認知症の病理とリハとケア」「高齢者の疾病及び主治医との連携」「社会資源の活用」等の全体講義と選択科目として、「訪問看護・訪問リハビリテーション」等最低3科目の選択が必要となります。

専門研修課程Ⅱ （実務経験者更新研修②）

専門研修課程Ⅱは、中堅レベル以上の介護支援専門員を対象に、支援困難事例への対応技術などを習得し、事業所・施設で中核的な役割を担っていくための研修です。

研修日数は、四日間（平成二十四年十月二十四日から十二月四日までの間）でした。参加者は、全体で887名でした。研修内容は、全体講義と居宅コース・特養コース・老健コース・グループホームコースに分かれて研修を実施しました。

今後の研修予定

1月～3月にかけて、実務未経験者を対象の「更新研修」、と5年の更新期限が切れてしまった方を対象の「再研修」及び今年度の群馬県介護支援専門員実務研修受講試験に合格した方を対象の「実務研修」の3研修の開催が予定されています。

平成24年度群馬県 介護支援専門員実務研修受講試験 — 県内4会場で実施 —

- ・実施日 平成24年10月28日(日)
- ・会場 上武大学(伊勢崎キャンパス)他
- ・受験者数 2,324名
- ・合格者数 460名
- ・合格率 19.8%

本会では、平成十九年度より群馬県の委託を受け、「群馬県介護支援専門員実務研修受講試験」業務の一部を受託し、試験を実施することになりました。

この試験は、介護支援専門員の養成にあたり、介護支援専門員実務研修を受講する前段として、事前に必要な専門知識等を有していることを確認するために行うものです。

介護支援専門員は、介護保険法に規定された専門職として、要介護者や家族からの相談に応じ、対象となる方が自立した日常生活を営めるように、本人や家族の意向、心身の状態等を勘案し、サービス事業者等との連絡・調整を図りながらサービス計画（ケアプラン）を作成します。

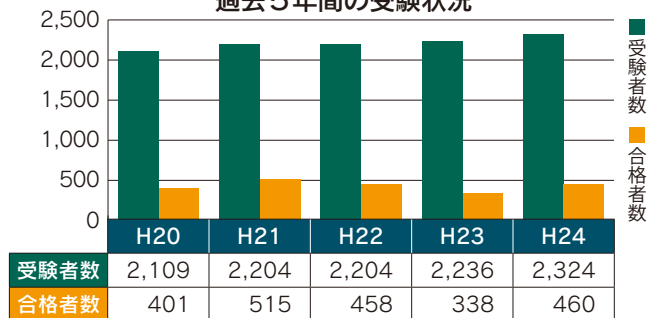
また、ケアプランの実行後、要介護者や家族の状況に応じてケアプランの変更・修正を行います。

この試験を受験できる方は、保健・医療・福祉分野で、原則5年以上の対人援助業務を経験した方が対象となります。

今年度は、平成二十四年十月二十八日に実施しました。当日欠席者を含め、受験者は、二千五百名近くになり、受験者全体の約二割弱の460名が合格しました。（合格発表日：12月10日）

合格者には、今後介護支援専門員実務研修修了後、介護現場で良質なサービス提供に向けて頑張ってもらいたいと思います。

過去5年間の受験状況



Hello! ボランティアセンター

甘楽町社会福祉協議会ボランティアセンター



甘楽町災害 VC 設置訓練の様子

総合福祉センター内に開設してある甘楽町社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティア登録、相談、育成などを実施しています。

ボランティアセンターには、7部会160名が登録し活動しています。

福祉学習では、町内小中学校での車いす体験やデイサービス、地域活動支援センター、学童保育所などで福祉体験の支援を行っています。

11月25日には、県南部を震源とする震度6の直下型地震を想定した甘楽町地域防災訓練が福島小学校校庭で行われ、災害ボランティアセンター設置訓練及び非常食配布(600食)訓練をボランティア30名の協力で実施しました。

地域福祉を担うボランティア活動の拠点として、より多くの皆さんがボランティア活動に興味を持ち、誰でも気軽に参加できる、誰でも気軽に足を運んでもらえる窓口づくりに努めてまいります。

甘楽町社会福祉協議会ボランティアセンター
 〒370-2213 甘楽郡甘楽町白倉1395-1 総合福祉センター内
 TEL 0274-74-5700 FAX 0274-74-5760

ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
情
報

地域の活性化を目指して～前橋青年会議所と学生ボランティアの取り組み

平成24年10月27日(土)、前橋市中心市街地にて「スマイルキッズショッパーズ」を開催し、ぐんま学生ボランティアネットワークより27名のご協力をいただきました。

この事業は、子どもたちがまちなかの店舗での職業体験を通じてまちなかに親しみ、賑いを創り出す、(社)前橋青年会議所主催の事業です。

前橋市内240名の小学生がレストランや八百屋、花屋といったまちなかの店舗をはじめ、こども議員、ラジオDJ、新聞記者、俳優など、27種類の職業から希望した体験に挑戦しました。ボランティアは各店舗でのお客さんや美容院のヘアモデル、ハンバーガー店のスタッフ、ブライダル店でのドレスモデル、こども裁判での犯人役など、様々な役割で子どもたちの職業体験を強力にサポートし、地域での世代間交流の推進の一躍を買うことにもつながりました。

また、職業体験の思い出を描いた子どもたちの「絵日記」を、12月7日(金)から3日間、国際交流広場(前橋市千代田町2-8-14)に展示することができ、わが街を少しでも良くしていこうと、関係者が一体となって進める市民活動の大切さが伝わる事業となりました。



子どもたちの職業体験の様子

社会福祉協力校

館林市立第一中学校

1. 福祉教育の目標

館林市は、「鶴舞う形の群馬県」のちょうど鶴の頭の部分にあたり、利根川と渡良瀬川に挟まれた平坦地で、日本一暑い街としても知られています。本校は、旧城下町のはずれ、風情ある松林に囲まれ、歴史と自然に育まれながら元気なあいさつと部活

動の声がいとも響き渡っている学校です。「豊かな心を持ち、たくましく、実践力のある生徒」という学校教育目標を掲げ、豊かな人間性と社会性を持った生徒の育成を目指しています。

2. 取り組み内容の紹介

生徒会や委員会、各学年の総合学習を中心に地域交流や募金活動、様々な体験活動に取り組んできました。

地域ボランティア団体には、いつも温かいご支援をいただきました。

(1) 体験活動・交流

活動

1年生 つつじヶ岡公園の子房摘み、

学校周辺のゴミ拾い、

赤城林間学校での環境学習

2年生 点字・手話体験講習会、車いす体験、幼・保育園

・福祉施設への職場体験

3年生 福祉ボランティア、幼稚園実習、地域振興行事

（下町夜市）などへの参加
運動会などへ園児・お年寄りの招待（生徒会）、福祉ふれあい祭りで吹奏楽部の演奏

(2) 募金・収集活動
ペットボトルキャップ集め、資源回収（古紙、アルミ缶）、赤い羽根募金、レッドリボン運動、書き損じはがき、友情の絵はがき販売

3. 3カ年の成果と課題

障害のある方やお年寄り、小さい子ども達や外国の方々など、生徒達は、普段接することのない方々と直接言葉を交わしたり、ふれあったりする機会を多くもつことで様々な成長を見せてくれました。最初は戸惑っていた生徒達も、体験を重ねるごとに、進んで声かけや介助ができるようになりました。特に、施設訪問やイベントに参加した生徒達は、挨拶やマナーを自然に身に付けていたことに驚きや小さな感動を感じました。今後は、生徒自身の気づきや願いなど、生徒達の声を集め、地域社会との様々な交流活動や福祉体験を充実させていきたいと思えます。



園児を招待した運動会の様子

ペットボトルキャップ回収時のお願いについて

途上国へワクチンを送る活動等を含めて、ペットボトルキャップの回収にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

今回はペットボトルキャップの回収に際して、リサイクル業者からのお願いごとを含めて、回収時のルールについて紹介させていただきます。

キャップ回収時のルールとお願いごと

- ・リサイクルに使用する破砕機が故障する原因にもなりますので、ペットボトルのキャップ以外（その他のキャップ類や缶ジュースのプルトップ、テレホンカード等）のものは絶対にいれないでください。
- ・シール（キャンペーン用など）は必ずはがしたものにしてください。

<お問い合わせ先> ぐんまボランティア・市民活動支援センター
〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉協議会内
TEL:027-255-6111 FAX:027-255-6444

知的障害者施設 らいず 高平 直明さん

冬号表紙

素敵な笑顔

前橋市にある知的障害者施設「らいず」で生活支援員として働く高平直明さん。社会人1年目で学ぶことの多い毎日ですが、プライベートもアクティブに過ごしています。



※この仕事に就いたきっかけは？

中学生の頃から、福祉関係の仕事に就きたいと考えていました。知的障害者施設で働こうと決めたのは、大学時代のボランティアがきっかけです。そこで出会った人たちの成長する姿を見て、自分も同様に成長を支援したいと思いました。

※仕事内容と心がけていることを教えてください。

主に、利用者さんの作業活動の管理と支援を行っています。自閉症クラスを担当しているのですが、コミュニケーションを円滑に取ることが信頼関係を築くことが難しいですね。ストレスを感じたり、思いが上手く伝わらないとパニックになってしまう人もいますので、まずは利用者さん一人ひとりの関わりを増やして、気持ちを理解できるように努めています。また、職員として、指導者として、しっかりと心掛けています。

※フットサルが趣味だとか。

中学から大学までサッカーをやっていました。今はフットサル

※これからの目標は何ですか？

利用者さんに毎日楽しく来てもらって、楽しく帰ってもらえることですね。そのためにももちろん大学で学んだことだけでは足りない

ので、日々分からないことを調べたり、休日に行われる講習会に参加したりして勉強しています。利用者さんにとってこの施設に通うことが生き甲斐になるように、もっと努力しなければと思っています。自分自身も成長していきたいですね。

※これから福祉職を目指す方へメッセージを。

まずは「やりたい」ということが大事です。福祉の仕事は、皆あなたに支えてくれるので働きやすいですよ。自分がやりたいことに信念を持って飛び込めば大丈夫だと思おうので、一緒に頑張りましょう。

現在、社会福祉士の資格取得を目指して勉強中だという高平さん。夢に向かってまっすぐに進む芯の強さを感じました。休日には東京や軽井沢にも出かけているそうで、いきいきとした笑顔で撮影に臨んでくれました。

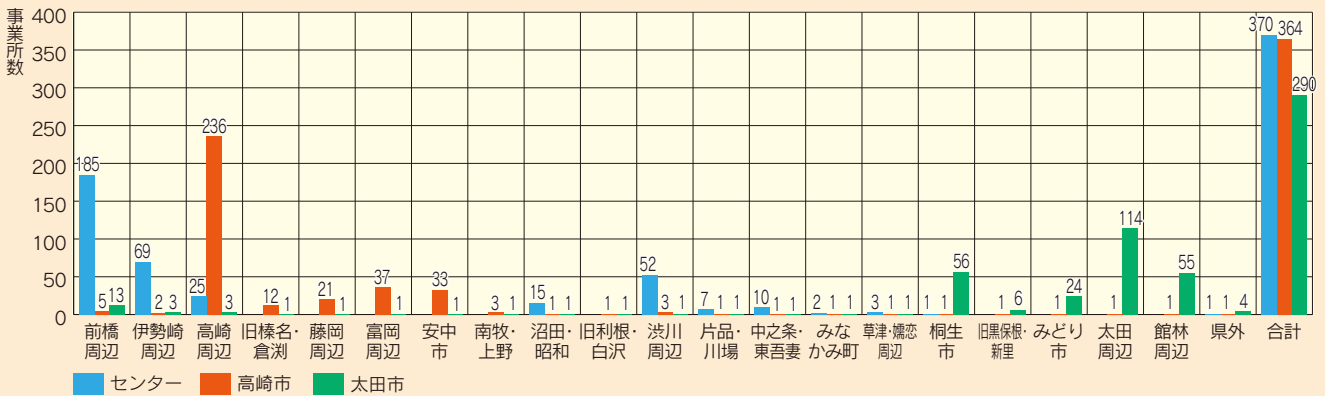
福祉マンパワーセンター・福祉人材バンクの積極的活用を!!

福祉・介護人材の安定的確保を目指して、福祉マンパワーセンター及び福祉人材バンクは、福祉・介護人材に特化した「福祉人材無料職業紹介事業」を実施しています。

経験豊富な相談員が、あなたの就職活動のお手伝いをさせていただきます。

なお、下図に、11月分の「市町村別有効求人事業所数」をグラフ化してみました。センター・バンクの所在地から離れていくほど、求人事業所の登録数が減少していることが明らかになりました。

今後、中央福祉人材センターが、システムの一部改修を行い、改善に向けた取り組みを予定しています。



編集/発行
 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会
 〒371-8525 (専用郵便番号)
 群馬県前橋市新前橋町13-12
 群馬県社会福祉総合センター内
 TEL 027-255-6033(代表)
 FAX 027-255-6173
 URL http://www.g-shakyo.or.jp/
 発行日 平成25年1月1日

また、地域のまちづくりに関しての住民の意見の収集や、他分野では、美術館等の文化施設が地域や施設に向いてワークショップなどを行うときにも使われます。

「アウトリーチ」とは「手を伸ばす、手を差し伸べる」という意味があります。

福祉事業等の実施機関が、潜在的に利用が必要な方に対して利用の実現に向けて取り組みを行うことです。さまざまな理由で自発的には援助を求めてこない利用者に対してアプローチするものです。

「アウトリーチ」とは「アウトリーチ(Outreach)」

福祉まめ知識